

ホスピスでの出会い

ほりたかずひさ
堀田和久／ジョンミ

結婚に至る男女の出会いの場が少なくなっていると言われます。また結婚していても、病気で伴侶を亡くすと、再婚は簡単なことではありません。ところが、ともに伴侶を難病で亡くし、その同じ病院で出会い、再婚に至ったというカップルがいます。

横浜市磯子区でフラワーアレンジメント教室「ミファラン」を経営する堀田和久／ジョンミさんご夫妻です。教室の一角でお話を伺いました。

出会い

「お二人は、どちらで出会われましたか。和久 横浜市瀬谷区にある横浜甍生病院のホスピスです。その医師が、たまたまクリスマスチャンの先生でした。

家内ジョンミの前夫、若林裕之が二〇〇二年の4月に亡くなり、その年の9月に私の前妻、晴子が亡くなりました。

そのホスピスの小澤先生が、患者の家族

のために、前年に亡くなった方々の遺族を集めて「偲ぶ会」というパーティーを開催していました。ガン患者の家族も大変なので、家族のケアも考える先生でした。

皆さんの悲しみが大きいので、先立つた人を偲びながら、「亡くなった人の分まで、あなたたちが元気に生きてください」という趣旨の会を毎年しています。前の年に亡くなった方の家族を、次の年の春くらいに集めます。

ジョンミに会ったのは、その会です。

私たちは、前伴侶の入院の時期が半年ずれていたの、互いに会ったことがありませんでした。でも、たまたま、担当の看護師さんが同じでした。

二人とも、本当は「偲ぶ会」には行きたくはなかったんです。あまり思い出したくもありません。でも、お世話になった先生や看護師さんにご挨拶して、近況を知らせて、「『ありがとうございました』とお礼をしに行かなくちゃ」という気持ちで行きました。

立食パーティーで看護師さんと話しをしているときに、同じ看護師さんにお世話になった家内も、「ありがとうございました」と看護師さんに話していました。看護師を含めて三人で話したのが初めての出会いです。

看護師さんが「こちらの方はこんな経験をされて」と話してくれるので、「ああ、自分

と同じような経験をした方もいるんだ」と思いました。

家内の前の夫は闘病生活は6年ほどと、私の前の家内の倍くらいありました。「私より大変だったんだ」と思いました。そのあとで、二人だけで話しをしました。なんだかホッとするんです。「やつと分かり合える人がいる」みたいな感じで。

会った時は、男と女の恋愛感情などありません。「分かり合える人がやつと現れた」という感じです。二人とも、その時は「二度と結婚なんかしない」と思っていました。

「奥様もですか。

ジョンミ そうです。和久 「もう、こんな思いをしたくない。また相手が病気になって見送るなんてイヤだ」と思いましたが、「この人とはまた会って話しがしたいな」とは思いました。それだけです。

それで、電話番号やメールアドレスを交換しました。今の悩みなどを話し合いました。いろいろな人が、私を慰めようと「大変だったね」とか私に言ってくださるんですが、やっぱり本当のところは分からないじゃないですか。嬉しいことは嬉しいですが、やはり表面的なんです。(以下略)